

事業計画書

事業名	障がい者就労支援施設生産品ショップ「まんまるショップ」開店運営
実施箇所	岩村田本町商店街 「手仕事村」（佐久市岩村田773-2）
実施期間	事業開始予定年月日 26年 6月 1日
	事業終了予定年月日 27年 3月 31日
事業概要	<p><事業の目的> 佐久地域における障がい者就労支援施設や作業所では、加工食品や日用品、工芸品等が通所者によって生産されているが、販売会や特定の場所で販売されるのみで、広く販売の機会を得ているとは言いがたい。 これら生産品の販路や、恒常的に販売できる販売所を確保することにより、生産のモチベーションアップとクオリティ維持向上に貢献でき、生産者の自立や作業所の運営を間接的に支援する。</p>
	<p><事業の内容> 岩村田本町商店街運営「本町手仕事村」のブースを賃借し、本団体直営の障がい者就労施設生産品販売店「まんまるショップ・岩村田店」を開店、各作業所から、食品、工芸品、日用品等の生産品を調達し、販売する。 また、他の場所（テナントや短期出店）にもワンワゴンショップとして展開し、商品配送の拠点や、生産品を「まんまるショップ」ブランド商品として加工するための作業場所とする。 商品のカタログや商品紹介のWebサイトを作り、商品や作業所のPRを積極的におこなっていく。 詳しくは別紙事業計画書を参照ください。</p>
	<p><事業の効果・アピールポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者就労施設・作業所で作られた商品を恒常的に販売する場を作ることで、生産品を一定量調達するようになるので、生産量を計画的に調整できるようになる。 ・多くの人に生産品を買ってもらうことにより、生産者に就労のモチベーションをアップしてもらえる。 ・「良いもの」「売れる商品」としてプロデュースすることにより、作業所の商品が安くてそれなりというイメージを払拭し、商品価値を上げることができる。 ・商店街の中のチャレンジショップ内での開店ということで、PRの相乗効果が期待できる。 ・商品カタログやWebサイトをきちんと作り、定期的に媒体に宣伝広告を載せ、一般店と同じように集客をしていくことで、小さい店であるが収益事業として自立が見込まれる。 <p><事業における市の役割分担> 主に福祉作業所に対して協力をよびかけていただきたいのと、広報や市のWebサイトに掲載していただくことで、事業のPRに協力していただきたい。</p>

佐久地域にある障がい者就労支援施設で生産された食品、工芸品、日用品を販売施設で紹介・卸・販売管理等を行う団体を設立、この団体による主催ショップ「まんまるショップ」を開店。

団体の名前は「でしまる組」

佐久地域における障がい者就労支援施設、作業所があり、加工食品や日用品、工芸品の販路・販売所を確保し、生産のモチベーションアップとクオリティ維持向上に貢献したい考えです。

作業所の商品を一同に集め、人の集まるところに販売コーナーを作り、恒常的に商品が販売できる機会を作る。

また、将来的には、作業所の商品ということではなく「売れる商品」として開発、パッケージデザインや商品コンセプトに企画段階から関わり、佐久地域の人気ブランドとして育てる、中間支援団体の設立を計画しています。

- ・パン、クッキー、かりんとう、チョコレートなど
- ・コーヒー（自家焙煎、ドリッパーパック）
- ・味噌や漬け物
- ・さをり織（布地のみ作業所で生産）
- ・木工品
- ・石けん

まずはこれらの商品を各作業所から集め、紹介する場作りから着手する予定

「でしまる」とは

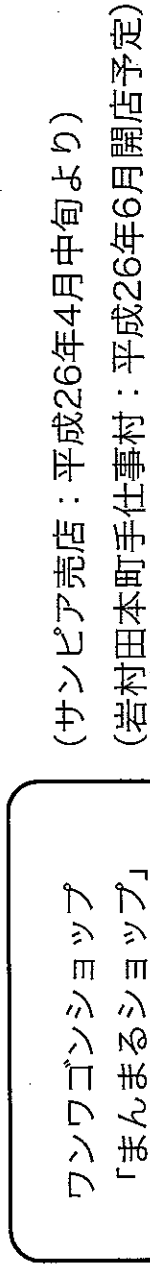
デシマル＝デジタル用語の小数点
小数と整数をつなぐポイント

参加メンバー（2014年4月時点）

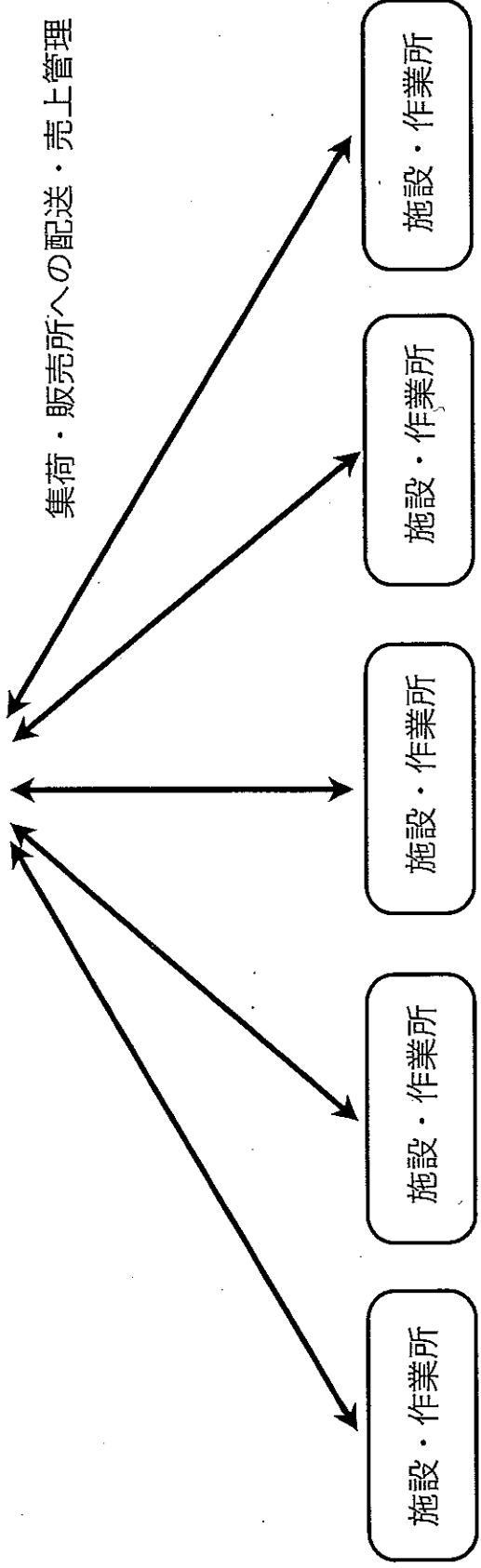
- ・NPO法人たんと。理事長
飯島尚高
- ・ワークサポートコスモス
山中琢磨・山中聡美
- ・遠山公子
小諸学舎評議員
- ・半田かつ江

「まんまるショップ」 開店計画について

「でしまる組」 機能イメージ



- ・ 収益事業目標
- ・ 委託先の負担緩和
- ・ 日常使いの雑貨、食品
- ・ 売れる商品開発、ブランディング



「まんまるショップ」開店計画について

まんまるショップ展開イメージ

ワンフゴショップとして、手仕事村のほかテナントを開拓
売上の増加、調達数の増加に専念



よりクオリティが高く、商品力の高い商品の開発提案



販売ブース、販売店も就労支援の場所として提供
(接客・店頭現場の仕事など)